

# 水の大切さ

宮ざき市立江平小 三年 林 あかり

平せい十七年、今から約二十年前台風十四号でお母さんの住んでいた家は、だん水になつたそうです。家が高台にあつたのでしん水ひがいはなかつたけれど水がふ足して自えいたいが車で水を持って来て、それをもらうために長いれつにならんでタンク一つの水で生活をした事があると話してくれました。

その話を聞いた時、わたしは少し心ばいになりました。なぜかというところ宮崎には台風がたくさん来るからです。そうぞうしてみました。今、水が止まつてしまつたら、お風に入れない、トイレが流れない、手が洗えない、食きが使えない、のみ水が足りない、給食もストップして学校にも通えなくなりべん強もできなくなります。毎日あたり前に出来たことが、出来なくなつてしまいます。

わたしたちの生活は、水道からふつうに水が出て、おいしい水をのむことが出来ます。

それは、川の水をきれいにするセンターがあるからだということをお先生に教えてもらいました。日本の水は、海外でも有名で安心してのめる水だそうです。そして、どろ水をおまないと生活できない国もあることを今回初めて知りました。いろんな国の方が日本みたいにお水をのめるようになるといいなと思います。

今まで、水を出したまま手を洗ったり、お風呂の水をためすぎたりしたことを思い出した。もったいないことは、やめようと思いました。これからは、水の大切さを理かいて、体にひつようなのみ水、生活用水、そしてその元となる自ぜんも大切に出来る人になりたいと思いました。